

教育目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒
明るく思いやりのある生徒
健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」



第 6 号

平成29年 6月12日発行
須賀川市立第二中学校
☎75-2910
発行責任者：校長 高崎則行

規則正しい生活で、十分な栄養と休養を

「朝食について見直そう週間」を機に生活の見直しも

すでに「給食だより」6月号でお知らせしましたが、6月は「食育月間」です。また、6月19日（月）～6月23日（金）は「朝食について見直そう週間」です。



「子どもを取り巻く環境の変化に対応して」という文言が、教育施策でよく使われるようになりました。長く学校教育に携わって子どもの健康の実態に目を向けると、望ましい食習慣の指導が必要な子どもの多くは、生活習慣に問題を抱えているということに気づかされます。つまり、夜更かしをして朝の目覚めが悪いなどの規則正しい生活、身の回りのことは自分でするなどの望ましい生活習慣がくずれていると、食育にかかる実践は困難だと感じています。特に、

朝食にはそれがきめんにあらわれるようです。

十分な栄養（食事）と休養（睡眠）は、活力の源です。活力が減退すると、関心の幅が狭まり、意欲が低下します。学習への集中力も持続しづらくなり、運動能力も低下します。また、総じて困難に立ち向かおうとする気力も弱くなります。本来人間関係というものは煩わしく面倒なものなのですから、人と関わろうとする意欲も力も弱くなってしまいかも知れません。

それぞれのご家庭で、「朝食について見直そう週間」を機会に、まず食事と睡眠を見直してみましよう。

もし、それが望ましい状態なのに、お子さんがたびたび気分や体調の不良を訴えるようであったら、別の要因があるのかもしれない。小学校時代から徐々に体力がついて、中学・高校時代というのは「一晩眠れば疲れが吹き飛ぶ」というくらい回復力の最も高い年代です。「体調不良」をたびたび訴えるというのは早急に対処すべき問題です。

健康上の問題には、本校には2名の養護教諭がおり、皆さんに寄り添いながら「健康相談・保健指導」にあたります。どうぞ、ためらうことなくご利用ください。

いよいよ県中地区大会です

6月9日（金）、県中地区総合体育大会・水泳大会、陸上競技県大会の選手壮行会を行いました。

出張中の校長に代わり、大河原正道教頭が「二中生としての『矜持（きょうじ）』と岩瀬の代表としての『矜持』を胸に、自分の能力に自信を持って悔いのない競技をしてきてください。」とエールを送りました。

各部活動の顧問からお知らせが届くはずですが、大会開催日は次のとおりです。

県中地区総合体育大会 6月14日（水）～15日（木）
県中地区水泳大会 6月21日（水）～22日（木）
陸上競技県大会 7月4日（火）～6日（木）



正しい反省を促したい

車は走る凶器です。

岩瀬支部総合体育大会が行われた5月31日(水)、ジャージ姿の中学生が国道4号線の縁石に腰を下ろして車道に足を投げ出していたという情報が寄せられました。車は、それを避けるために蛇行して通り過ぎていたといえます。

早速、事実確認をし、注意・指導を行うよう指示をしました。その際、「自分から名乗り出られるといいね。」という指示も添えました。

これは、犯人捜しをすることが目的なのではありません。まず、個人を特定することで事実を確実に把握したいのです。そのうえで、なぜそういう行為をしたのか、よく振り返らせたいからです。本人から話を聞けないので想像するしかありませんが、足下を車が通り過ぎるスリルが楽しかったのかもしれませんが、また、車がよけて通るのが面白かったのかもしれませんが。そうだとしたら、その善悪をしっかりと判断させ、そういう気持ちを心の中から排除しなければなりません。

この行為は単純な迷惑行為ではなく、身体・生命に関わる大事故につながりかねない危険行為です。名乗り出てください直接話ができれば、そこまでわかってくれたか確認でき、その生徒との信頼関係を維持したまま通常の教育活動に戻れるのです。

授業研究スタート



5月15日(月)、北村暢浩教諭の理科の授業(2年1組)と星哲雄教諭の数学の授業(3年6組)を皮切りに、授業充実を目指す本校の研究活動がスタートしました。生徒の主体的な学びを通して知識や技能の確実な習得をねらって授業研究を進めてまいります。

研修主任の北村教諭は、本年度新たに教科ごとの打合せを立ち上げ、初回は自ら授業を提供する熱の入れようです。

また、それ以外でも半澤庄多教諭の初任者研修の授業や教育実習生の授業を、進んで参観し、写真を撮ったり、熱心にメモを取ったりしている教員もおり、その研究熱心さに胸を熱くしているところでした。

私たちは「互見授業」と呼んでいますが、そのように同僚間でお互いの授業を見せ合い、指導力を磨いていきたいと思えます。

一味違うぞ！ 二中学生

放送部の朝と給食の時間の放送を楽しみにしています。

まず、アナウンスが素晴らしい。不思議に、学校で流れる児童・生徒のアナウンスには独特の抑揚があります。この抑揚は全国的に共通のようですが、これがなく、自然な話し言葉が意識されているのです。さらに、首都圏でも「じてんしゃ(自転車)」を「じてんしゃ」、「たいいくかん(体育館)」を「たいいくかん」と言ったりします。しかし、正しく「じてんしゃ」「たいいくかん」と発音しています。

もっとすごいのは、鼻濁音(鼻にかかる濁音)です。ガ行の音(ガギグゲゴ)には、2種類あります。この使い分けは正しい日本語の使い方なのに、50歳以下の人ほとんど鼻濁音を使うことができなくなっています。最近、NHKのアナウンサーさえも鼻濁音を使わなくなっているようです。皆さんは、いかがですか。試してみましょう。

① 郷(ゴウ)ひろみ ② 岐阜県の白川郷(ごう)

では、②のほうが鼻濁音です。「鉄人28号(ごう)」の「ご」も鼻濁音です(古すぎるかな)。本校では、「お客様が」「先生方(がた)」と鼻濁音で正しくアナウンスされています。

また、お昼の放送は内容も工夫が凝らされています。一方的なアナウンスだけではなく、インタビューやラジオドラマ仕立てにして、興味を喚起してわかりやすく伝えていきます。放送が流れてくると、ウキウキしてしまう私です。

この学校だよりは、本校HPからもご覧いただけます。